

1. 企画の目的

- 大学生との交流を通して、児童に合意形成をする力や人間関係を構築する力を身に付けさせる。
- 児童との交流や教育実践に関する学びを通して、教員志望の学生の教育実践力を高める。
- 大学生による個別の学習支援を通して、児童の学力の定着・向上を図る。

2. 企画の背景

少人数の限定された人間関係(中学校進学時の障壁)

キャリア意識の希薄さ(「将来の夢」の選択肢)

ベテラン教師の教育技術の継承(プレステージの人材育成)

「児童のキャリアプランの意識高揚」
「大学生への教職の魅力発信」

4. 具体的活動内容

- ✓ 院生の授業参観を通して、学担が客観的に児童の実態把握をする
- ✓ 大学生が授業補助に入ったり、学習プリントを準備し、児童の学習を支援する
- ✓ 児童が「昼休みの遊び方」を学生に提案し、学生と一緒に遊ぶ

6. スケジュール

日程	支援内容	備考
5時間目	・授業実施 ・学習支援(T2) 自学支援	
給食	※ランチミーティング(家庭科室)	※弁当持参
昼休み	・児童との交流(集団遊び・個別遊び)	
清掃 かがやきタイム	・清掃補助 ・学習内容習熟支援(キュービナ活用)	

3. 企画の内容

項目(コンテンツ)	内容
①大学院生による授業	・院生(教員免許保有者)による授業 ・学級担任による指導的評価活動の実施
②大学生による学習支援	・学級担任の授業における個別の学習支援対応 ・習熟(自学)に活用できる学習教具の提供
③大学生による児童集団支援	・昼休みの過ごし方(遊び)の企画や運営の支援 ・昼休みの見守り支援

5. 期待される成果

児童の人間関係構築力・合意形成力の向上(中学校進学時の不安解消)

児童のキャリア意識の向上(「進路選択の広がり」)

教員の魅力実感・人材育成(「働きがい」「やりがい」の向上)

児童の学力向上
教師の授業力向上
等、波及効果にも
期待!

7. 留意事項

- ・ 学生には、児童の個人情報に関する守秘義務を徹底する。
- ・ 学生には、学生個人の記録媒体(スマホ等)による児童の写真撮影を固く禁止する。
- ・ 学生には、児童との連絡先の交換およびSNSによる連絡を固く禁止する。
- ・ 学校および教職員は、学生の卒論研究への協力をする。
- ・ 学校および教職員は、学生の意向も尊重しながら教育支援を依頼する。

★児童が学生に「さまざまな遊び方」を提案することで、児童の企画力・提案力なども高める。